

命を守る、 災害医療の最前線



大規模災害を想定した訓練の様子

災害時の医療拠点・豊川市民病院

大規模な災害が発生した時、なくてはならない医療。命の危険に関わる重傷者が増加する中、1人でも多くの命を救うことが求められます。

東三河の地域中核災害拠点病院に指定されている豊川市民病院は、大規模災害によって甚大な被害が生じ、診療所や医療機関などが診療活動を十分に行えなくなった際に、この地域における医療活動の拠点となります。被災地で応急救護を行う救護所や救急病院などと連携し、重症患者への適切な医療を確保する他、全国からの医療支援をまとめ、支援が必要な場所へ提供したり、医療チームを派遣したりするなど、災害医療の中心となって発災直後の医療体制を構築する役割を果たします。

豊川市民病院は、災害時に医療提供をするため、医療材料の備蓄をはじめ、大規模災害を想定した訓練を行うなど、日頃から災害に備えています。また、災害派遣医療チームDMAT（ディーマット）の被災地派遣といった、重要な役割も担っています。

今回の特集では、DMAT隊員の声を通して、災害医療について紹介します。詳しいことは、豊川市民病院庶務課（86局1111番）へお問い合わせください。

災害に強い豊川市民病院



震度7の揺れを震度4程度に軽減できる免震装置の他、地下水利用システムにより、自前で水の確保ができます。



非常用発電機では、約3日間発電可能。また、燃料は地下の貯蓄タンクに備蓄しています。



入院患者用、職員用ともに約3日分の食料・飲料水の他、一定量の薬品と医療材料を備蓄しています。

※豊川市民病院は災害医療の拠点病院であり、避難所ではありません。大規模災害時は、重症者の治療を行っているため、避難者を受け入れることはできません。ご理解とご協力をお願いします。



豊川市民病院 DMAT隊員
診療放射線技師 **加藤 敬之**

豊川市民病院 DMAT隊員（統括DMAT）
呼吸器外科医師 **彦坂 雄**

豊川市民病院 DMAT隊員
救急看護認定看護師 **山本 裕美**

ディーマット 災害派遣医療チームDMATとは…

災害急性期（災害発生からおおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った医療チームのことで、災害派遣医療チーム“Disaster Medical Assistance Team”の頭文字から、「DMAT」と呼ばれています。地震や津波、台風などの大規模な災害や、テロなどで傷病者が出た際に、発生直後から被災地で医療・救護活動をするために資格を取得し、専門的な研修や訓練を受けています。令和6年能登半島地震の被災地にも、豊川市民病院から2隊を派遣し、医療・救護活動を行いました。

DMAT隊員に聞く、 災害医療のリアル

Q 災害時のDMATの活動内容について教えてください。

彦坂 職種によって業務は変わりますが、DMATは災害発生後、早期に被災地へ向かい、現地の災害本部の支援や医療活動、傷病者を安全な地域へ搬送することなどを行います。重傷者が増加する災害急性期は、医療の需要が高まる一方、現地で医療を提供することが難しいため、私たちDMATが派遣されます。被災地では医療を必要とする傷病者が多くいます。その方々に適切な医療を迅速に提供し、一人でも多くの命を助けることが使命です。

山本 看護師は、救急看護の知識などを活かし、医師の補助として診療活動を行います。また、現地の状況によって、臨機応変な対応が求められます。

加藤 普段は放射線技師として勤務していますが、DMATでは業務調整員の役割を担っています。業務調整員は、被災地の情報収集や連絡調整のほか、現地での宿や食料の手配など、隊員が活動しやすくなるように後方支援を行います。

Q DMAT隊員はどのような研修や訓練を行っていますか？

彦坂 実際の災害現場では、どの場面で活動することになるかが分からないため、あらゆる場面の対応方法を学びます。現場での診察シミュレーションや場面に応じた患者の処置方法・病院への振り分けなどの実技研修も行います。

加藤 資格の取得後も技能を維持するため、定期的に研修があります。また、国などが実施する訓練にも参加し、重傷患者を処置する訓練などを行っています。訓練当日に想定された被災地が知らされ、その場所へ駆けつける訓練もしています。

Q 能登半島地震での活動や現場で感じたことを教えてください。

彦坂 能登では主に被災者の搬送を行いました。豊川市民病院から搬送車に乗って被災地に向かい、被災した病院に取り残された患者を搬送しました。道路が崩れていたため渋滞がひどく、搬送に膨大な時間を要しました。

山本 災害が発生したことで何もなくなってしまうと感じました。道路が崩れ、水も出ない。今の時代とは思えない光景があり、災害の現実を目の当た



山本 被災者から「家で揺れを感じ、備えていたヘルメットをかぶって外に出た途端、大きく揺れてアスファルトが割れた」と聞き、まずは身の安全を守る行動をとることが大切だと感じました。また、食料などは最低3日分準備しておくべきだと思います。食料や

Q DMATの活動を経て、市民に伝えたいことはありますか？

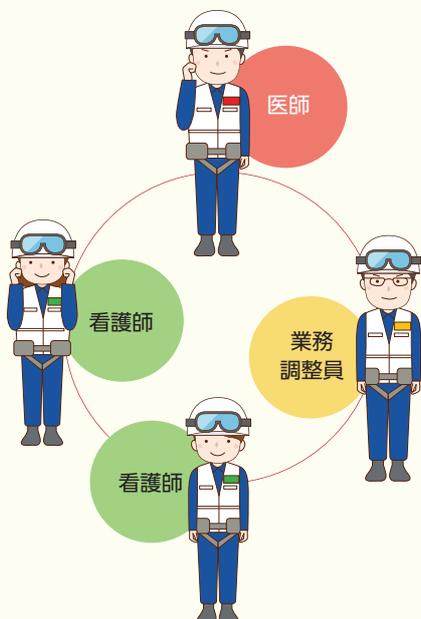
加藤 能登半島では「トリアージ」と呼ばれる、重傷者を優先した治療を行っている病院もありました。この地域で大規模な災害が発生した場合、市民病院でもトリアージを行うことが想定されます。そのため、物資などを求めて負傷していない方なども市民病院に駆けつけてしまうと救急医療に影響が出てしまう可能性があります。災害時の市民病院は避難所ではなく、救急医療を行う場所となることを知っておいてほしいです。

彦坂 今この瞬間に災害が起こったらどうなるのか想像してみてください。食料・トイレはどうするか。備えだけでなく、家族と安否確認の方法を決めておくことも重要です。豊川市で災害が起きた場合も、他地域からDMATが派遣されますが、南海トラフ地震ではあらゆる地域で被害が出ると想定されるため、支援は限られてしまうかもしれません。市民病院だけでも十分な医療が提供できるように体制を整えています。皆さんも防災意識を高め、日頃からの備えに取り組んでほしいと思います。

物資がすぐに届くとは限りません。南海トラフ地震臨時情報が発令された時、水を買うなどの備えをされた方も多いと思います。その備えを日頃からの習慣にしてほしいです。

災害派遣医療チーム DMAT

3つの職種で構成
※1チーム4~5人



DMAT発足のきっかけ

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、医療提供が遅れ、救急医療を受けていれば助かった命が多くあったと考えられています。その経験から、被災地で救命活動を行う組織が必要であると認識され、平成17年、厚生労働省によって日本初のDMATが発足しました。豊川市民病院でも平成24年にDMATを発足し、平成28年熊本地震や令和6年能登半島地震などの被災地で活動しています。

災害時に行われるトリアージとは・・・

大規模な災害により多数の傷病者が発生した場合に、限られた医療スタッフ、医薬品を効率よく運用し、多数の傷病者を治療するため、重症度や緊急度に応じて治療の優先順位を決めることです。現場では、治療の優先度順に「トリアージタグ」と呼ばれる識別表で赤・黄・緑・黒の色分けを行います。

優先順位	タグの色	分類	状態
1	赤	最優先治療群 (重傷群)	生命に関わる重篤な状態で、直ちに処置を行えば救命が可能な状態。
2	黄	待機的治疗群 (中等症群)	多少治療時間が遅れても生命に危険はないが、何らかの治療、処置が必要な状態。
3	緑	保留群 (軽症群)	軽傷で、今すぐの治療や搬送は必要がない状態。
4	黒	不処置群 (死亡群)	死亡、もしくは回復の見込みがない状態。